

令和元年度第1回 胎内市総合計画等審議会 議事要旨

1. 日時

令和元年11月22日（金）18：00～20：15

2. 場所

胎内市役所 2階大会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画等審議会委員】

鈴木均委員、高田岳人委員、西濟睦美委員、今本啓介委員、瀬賀和之委員、朝妻真美委員、伊藤祐太委員、長濱一彦委員、近満寿彦委員、渡邊俊一委員、安城守英委員

【事務局】

市長、総合政策課長、商工観光課長、総合政策課企画政策係長、係員

4. 議事内容

事務局より資料に沿って説明を行った後、事業の評価について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

>にいがた魅力アップ・定住促進事業について

○企業見学ツアーだが、2名が採用に至ったとあるが、参加者数と周知方法は。

〔定員を20名として設定しており、8月が延べ23名、2月が延べ21名の参加、学生が多く乗降する駅へのポスター掲出のほか首都圏の大学への訪問等と事務局回答〕

○先の話だが新潟食料農業大学の卒業生が市内の法人等へ就職して農業を活性化させるような動きはあるのか。

〔現在農協、地域おこし協力隊等と一緒に地域活動しており、胎内市に魅力を感じていただき胎内市に残って、第二のふるさととして胎内市に残ってやっていただけることも大切だし起業できるような環境整備も大切と事務局回答〕

○休耕地と学生等をマッチングさせるようなことは検討できないか。

〔農林水産課、農業委員会に伝えたと事務局回答〕

○奨学金返還支援について指定事業所はどれだけあるのか。

〔33事業所あり業種も建設業を始め、福祉、医療、飲食、娯楽など多様と事務局回答〕

○大学生とのつながりについて、地域の行事などに来てもらい交流も現に生まれているから、もっとひざを交えて話をしてみるべき。

〔参考にさせていただくと事務局回答〕

>新発田 DMO 活動に基づく広域観光圏創出と輸出促進による稼げる地域づくりについて

○インバウンドの数値、実態等把握しているのか。

〔阿賀北管内での把握など行っていると事務局回答〕

○農産物の輸出についても積極的に行っていただきたい。

[検討を続けると事務局回答]

> (2) 人口ビジョン及び総合戦略について

①第1期胎内市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

- 小学生6年生・中学3年生の「将来、胎内市に住みたい又は住み続けたい」という割合というのが、かなり目標よりも下回っている、かなり減ってきているが、要因をつかんでいるか。
[完全に分析はできていないので教育委員会側とも話をしながら進めなければいけないと事務局回答]
- 子育て環境について今後どのような対策をとっていくのか。
[子どもを産んで育てるという部分が、子育て環境だけ考えればいいという部分ではなく、働く場所、生活する場所といった部分が大きく関わるので、トータルでやっていこうと考えており、後ほど資料として出てくる晩婚化が進んでいるという部分もあるので、ライフデザインについて早いうちから自分で選択してその道を行くというような事が考えられるような環境を作っていかなければいけないと事務局回答]
- 雇用環境の数値目標について経営法人数は、雇用を拡大するような大規模な法人化があちこちで進んでいるわけではないので、見直してもよいのではないかと。
- 高校を軸とした教育環境を充実させていくことで流出を防ぐことができるのではないかと。
[問題意識はあるが、現実的な取組として義務教育期間中の愛着を育む取組を主として行うと事務局回答]
- 婚活に関してはどのような取組を行っているのか。
[一昨年から新発田、聖籠と組んで、広域連携で婚活支援に取り組んでおりイベント、ライフデザインセミナー、個別相談等トータルサポートできるよう取り組んでいると事務局回答]

> (2) 人口ビジョン及び総合戦略について

②人口ビジョン及び第2期総合戦略策定の方向性及びスケジュールについて

- 他市町村の道の駅のように幹線に立ち止まって市を堪能できるような場所があると交流人口の増加にもつながるのではないかと。
[低利用の施設の活用など検討していくと事務局回答]
- 男性の未婚率が高い理由の分析はしているのか。
[完全にできているわけではないが、家と職場の往復で出会う場所が少ないのではないかと事務局回答]
- 働く場が少ないと誤認している人がまだ多いがどのように解消していくのか。
[少ないわけではないので企業と連携してPRしていくことが必要と事務局回答]